

はじめに

これからの進め方

ようこそ「聖書」の世界へ！ 「新約聖書」の世界へようこそいらっしゃいました。

新約聖書の中の大切な一書「ヨハネによる福音書」を、これから御一緒にゆつくりと学んでいくことにしましょう。2,000年に及ぶキリスト教の歴史において、どれほど多くの人々がこの福音書によって目を開かれてきたことでしょうか。内に潜む暗い闇を照らし出されながらも、なおも心を深く打たれて力づけられ、又とない「救い」を与えられてきた人たちがどれほどいたことでしょうか。「ヨハネによる福音書」を生涯の愛読書とし、伴侶とする人々も少なくありません。

そんな福音書から、どれだけたくさんのメッセージを聴き取れるでしょうか。どれだけ深くメッセージを読み取れるでしょうか。慌てず焦らず、丁寧に味わいながら、御一緒に読み進めていきたいと思えます。毎日を生きるうえで、また人生を生き抜くうえでかけがえのない宝物が見つかりますように。

． ． ． ． ． ．

次のような順序でこれからの時間を進めることにしましょう。読み・黙想し、学び・黙想し、聴き・もう一度黙想して、聖書の語りかけに触れていきます。頭も心も柔らかにし、探究心と向上心を豊かにしてそうできたなら、聖書を読むことがきっと楽しくなるのではないのでしょうか。また、誰かしら良き友と語り合いながらそのようにできたら、その楽しさはいつそう増すにちがいありません。

4週をもって、基本の一まとめとします

第1週 1. 聖書本文を読みます。(素読)

ヨハネによる福音書

1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があつた。命は人間を照らす光であつた。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかつた。

神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。言は世にあつた。世は言によって成つたが、世は言を認めなかつた。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかつた。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であつて、恵みと真理とに満ちていた。ヨハネは、この方について証しをし、声を張

2. 毎日 繰り返して読み、まずは聖書の言葉そのものに想いを巡らします。(黙想①)
- ・意味の分かりにくい言葉や箇所はないでしょうか。
 - ・前後の繋がりがはっきりしない部分はないでしょうか。
 - ・目にしている言葉はどんな時代に・どんな所で・どんな状況の中で語られ、また記されたのでしょうか。
 - ・そのような中で、イエス・キリストはいつたい、どんな思いや意図をもってその言葉を語られたのでしょうか。
また、福音書をまとめた著者(たち)はいつたい、どんな思いや信仰をもってその言葉を書き記したのでしょうか。
 - ・私たちの生きるこの時代や・それぞれの所や・現在の状況の中に、はたして目の前の聖書のあり様と似たようなことがありはしないでしょうか。
 - ・あるとしたなら、私たちはそこでどんな語りかけを主イエスから聴き、著者(たち)から受け取るでしょうか。
 - ・そして結局、「この私自身」への語りかけとして、私たち一人ひとりはこの月の聖書の箇所からどんなメッセージを聴き取るのでしょうか。
日ごとの歩みを意味あるものとし、一回限りの生涯を納得のいく確かなものとしてくれる「何か」を見出すことができるでしょうか。
私たちの生きる毎日を、薄っぺらな御利益ではなく、深く湛えられた感謝と力で潤してくれる「恵み」というものを見つけることができるでしょうか。
3. 想い浮かんだことや想い巡らしたことを書き留めます。(書き留め①)
- 語り合う友がいるなら、自由にざっくばらんに分かち合います。(分かち合い①)
- ・不明なところ、気づいたこと、知っていること・・・
 - ・感じたこと、疑問に思うこと、心に響くこと・・・
 - ・心につまされる点、痛みを憶えさせられる点、悔い改めを迫られる点・・・
 - ・家庭や学校や職場との関連で、社会や世界の今との関係で、週ごとの教会生活を振り返るなかで・・・
 - ・「隣り人とは誰のことなのだろう」「教会の兄弟姉妹とは何なのだろうか」と自問するなかで・・・
 - ・そして、「この私のはたして、聖書のイエス・キリストとどう向き合っているのか」と自分自身を静かに深く見つめ直しながら・・・
- *ここで書き留めたこと・分かち合ったことをそのままにせず、それらを心に留めて、続く3週の学びに生かしていきます。
4. 次週(第2週)に行なう「基本の学び」の概要を確認します。
- *聖書箇所のポイントをまとめたものです。一通りざっと目を通し、次週の学びに備えましょう。

第2週 1. 聖書の本文について、ここで基本的な事柄を学びます。(基本の学び)

- *掲載の学習内容を見ながら、全体のあらましやカギとなるポイントについて学びます。
分りにくい箇所や議論のある点についても考えます。

ヨハネによる福音書 1章 1～18節 (1)

——「言は肉となって」(14)を中心にして——

「初めに言^{ことば}があった。言は神と共に・・・」(1)

- ・「ヨハネによる福音書」の書き出しの一節です。一度 耳にただけでもどことなく心に残る印象的な一節で、大変有名な箇所になっています。皆さんの感想はいかがでしょうか。どんな余韻が心に残るでしょうか。
- ・それにしても、「よく知られている」ということと「よく理解されている」ということはやはり必ずしも同じでないことがここからも分かるようです。なぜなら、この箇所はその有名さと反比例するかのようにしてとりわけ難解で、分りにくいからです。
- ・いったい、何がどうなっているのでしょうか。

「言は肉となって・・・」(14)

- ・「言は肉となって」とは、なんとも風変わりな言い方ではないでしょうか。普通でない妙な言い方で、異様な表現とも言えます。「人となって」とか「人の体をまとして」とかいうのなら、まだ分からないでもありませんが・・・
- ・ヨハネはなんで、こんな言い方をしたのでしょうか。
- ・「肉」と日本語で訳されている言葉は、新約聖書が記された当時のギリシア語では「サルクス (σὰρξ < σάρξ, σαρκός, ἡ)」という・・・

・・・(略)・・・

「ヨハネによる福音書」誕生の理由

・・・(略)・・・

どんな世界がその裏に？

・・・(略)・・・

2. 基本的な点を振り返りながら改めて黙想し、聖書の語りかけにもう一度 想いを巡らします。(黙想②)

*黙想①を参考にして

3. 想い巡らしたことをいま一度、書き留めます。(書き留め②)

語り合う友がいるなら、再度、自由に分かち合います。(分かち合い②)

*書き留め①、分かち合い①を参考にして

- *次週(第3週)は、ここまで2週にわたって学んできた聖書の箇所から筆者が聴き取ったメッセージを読みます。これまで自分で書き留め、分かち合ってきた事柄をそれに重ねて聞くと、一人ではなかなか聴こえてこない広くて深い聖書の語りかけがよりさやかに響いてくるのではないのでしょうか。自分なりに読み取ったメッセージを心にあたた

めて読むとさらに良いかもしれません。

第3週 1. 聖書本文から筆者が聴き取ったメッセージを読みます。(静聴)

「それしか・・・信じられるものが・・・」
ヨハネによる福音書 一章一〜十八節

東京の私鉄沿線の、ある小公園。
時計が午後九時を回ると、子どもたちが一人、また一人と集まってくる。
二人のときもあれば、十人以上のときもある。
この日は六人。
すべり台の上で、男の子が二人話している。
きいーっ、きいーっと音を響かせてブランコをこいでいるのは二人の男子。
ベンチには男の子と女の子が座っている。
みんな中学生だ。
三つの市から、自転車やバイクや電車でやってきていた。
(略)
ベンチで紫のバンダナを額に巻いた「彼氏」に肩をあずけていた中二のミユキは、茶髪でまゆの細い、きゃしゃな子だ。
最初、公園行きを両親に反対されたが、友だちにかける電話代が月二万円を超え、「公園ならいくら話してもタダだから」と言うと、黙認されるようになった。
小さなビニールのアルバムを持ち歩いている。開くと、女の子五人が海岸で手をふっていた。「彼氏」との写真には、ピンクと黄緑のペンで「LOVE LOVE」と書いてある。
「楽しかったことが、いつでもパツと思いつけるじゃん」
学校での写真は一枚もない。中学にはいやいや行っている。勉強は、小学校三年くらいからわからなくなった。

2. 分かりにくい点、確かめておきたい点、もう少し聞いてみたい点などを筆者に尋ねたり友と話し合います。(Q&A)

*次週は第4週で、まとめの最後の週になります。最終回として、これまでの全体を思い起こしながら、聖書箇所からそれぞれに自分自身へのメッセージを聴き取ります。

第4週 1. 聖書の本文を、噛み締めるようにして、さらに読み直します。(味読)

2. 3週にわたって学んできた事柄を思い起こしながら、自分自身へのメッセージを探って心静かに黙想します。(黙想③)

- ・自分の生き方への問いかけとして、最後にどんなメッセージを受け取ったでしょうか。
- ・自分の信仰への語りかけとして、最後にどんなメッセージを聴き取ったでしょうか。

3. 締め括りとして、最後にこれまでの全体を振り返りながら、それぞれの感想や思いや心境などを友と分かち合えたらすてきですね。(分かち合い③)

*毎回、「言葉のおみやげ」という資料を最後に掲載します。筆者がメッセージに引用した各種の言葉を、言葉の主の簡略な紹介を添えてまとめたものです。個人的な黙想や友との語らいなどの折に役立てば幸いです。